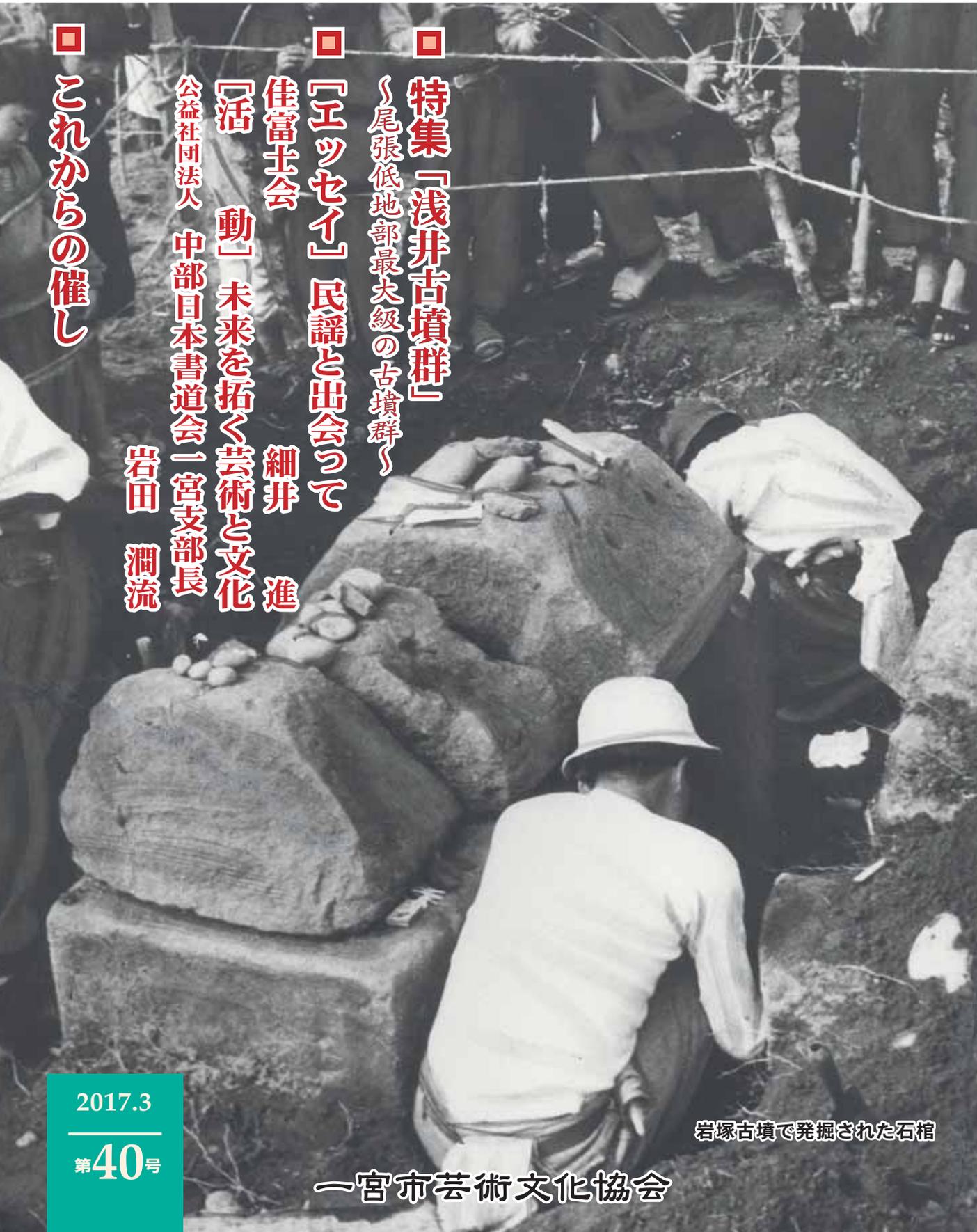


いちのみやの芸術文化



□ これからの催し

公益社団法人 中部日本書道会 一宮支部長

岩田 澗流

「活動」 未来を拓く芸術と文化

佳富士会 細井 進

□ 「エッセイ」 民謡と出会って

〜尾張低地部最大級の古墳群〜

□ 特集「浅井古墳群」

岩塚古墳で発掘された石棺

2017.3

第40号

一宮市芸術文化協会

ICHINOMIYA Arts and Culture Association

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

浅井古墳群

〜尾張低地部最大級の古墳群〜

浅井古墳群とは

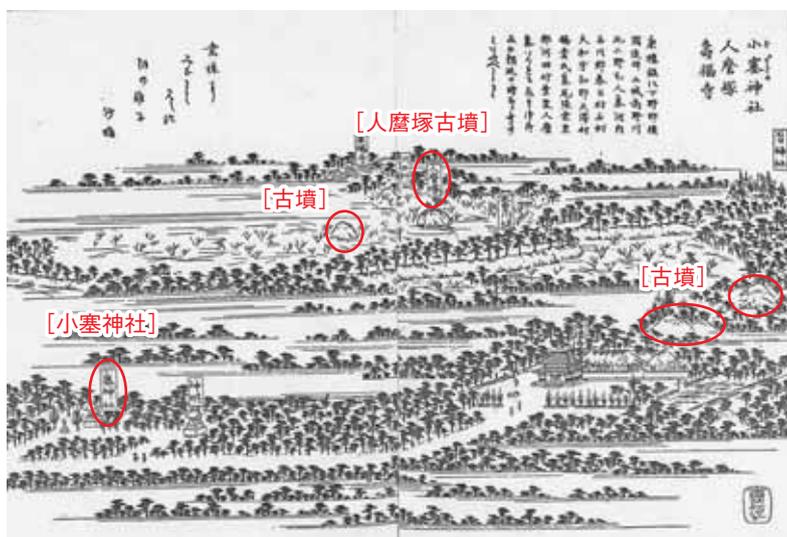
市域北東部の浅井町尾関の住宅地を歩くと所々に小高い丘状に盛り上がった場所があります。これは古墳と呼ばれる墳墓で現在では数えるほどしか残っていませんが、古墳時代（三世紀中頃〜七世紀）には五十基ほどの円墳や前方後円墳が密集して存在していたと考えられています。これは尾張地方の低地部、いわゆる河川による堆積作用によって形成された沖積地に造られた数としては最大級になります。浅井町のすぐ側には木曾川が流れており、物資の輸送において重要な地域であったことが推測されます。

この地域の古墳はまとめて「浅井古墳群」と呼ばれ、古墳時代の終わり頃に造られま

した。江戸時代に描かれた尾張名所図会（下図）にもその一部が描かれています。

浅井古墳群の調査の歴史

大正から昭和初期に、愛知県史蹟名勝天然記念物調査会主事小栗鐵次郎らによって葉栗野古墳（人麿塚古墳）などの調査が行われました。昭和三十三〜三十五年には一宮市史編さんの基礎資料調査のため、一宮市の委託を受けた名古屋考古学研究室によって学術的発掘調査が行われ、毛無塚古墳、岩塚古墳、愛岩塚古墳、桃塚古墳、小塞神社古墳の五基は県指定史跡になっています。その後も墓地改葬に伴う発掘調査や古墳の測量調査などが行われ、古墳群からの出土品は現在一宮市博物館にて保存、展示しています。



▲小塞神社・人麿塚・壽福寺（尾張名所図会后編巻五より）

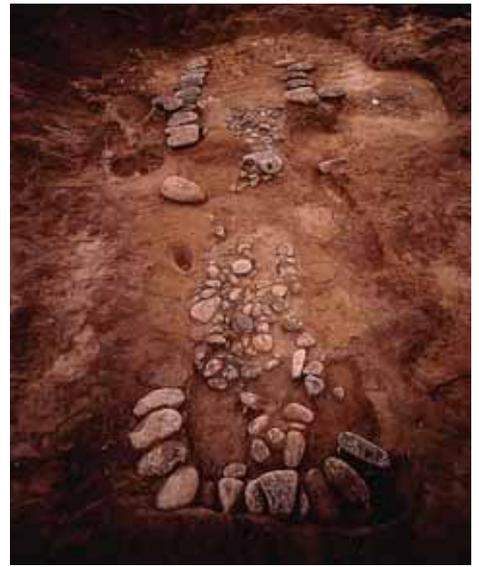
浅井古墳群の古墳からは、死者を埋葬するために石で造られた横穴式石室という部屋が多く見つかっています。横穴式石室は古墳時代の終わり頃に日本の各地で造られ、地域ごとに石室の形が異なります。浅井古墳群の多くの横穴式石室は、角のない丸い川原石を使って造られているのが特徴で、木曾川流域に分布している古墳に多くみられます。

石室からは石棺が見つかることもあり、

▶ 岩塚古墳の石棺と副葬品の出土状況(昭和33年)



▶ 川原石で造られた横穴式石室の最下段部分(浅井21号墳)



▶ 葉栗野古墳から出土した金色の馬具・一宮市博物館蔵



▶ 岩塚古墳で見つかった須恵器の長頸瓶「高さ45センチ・胴径30センチ」一宮市博物館蔵(上写真・中央の出土品)



岩塚古墳では一つの大きな石を削り貫いて造られた石棺が見つかっています。また、石室の中からは死者のために捧げられた副葬品も多く見つかっています。様々な焼き物や刀、弓矢の鏃、甲冑などが見つかり、岩塚古墳からは須恵器の長頸瓶(左写真)が見つかりました。これほど大きく完全な形に近い状態で発見されることは珍しく、とても貴重なものになります。また、葉栗野古墳(人麿塚古墳)からは金色の馬具(左写真)が見つかっています。

【参考文献】
 ● 岩野見司一九七七「古墳時代」新編一宮市史「本文編上」一宮市
 ● 澄田正一編一九七三「新編一宮市史」資料編四 一宮市●土
 本典生二〇〇七「浅井町内遺跡発掘調査報告」一宮市教育委員
 会●榎崎彰一九六三「新編一宮市史」資料編三 一宮市
 ● 西松賢一郎二〇一二「玉石」で築かれた古墳、浅井古墳・群の
 持つ可能性について「一宮の歴史と文化」一宮を語る」一宮
 市博物館●早野浩二二〇一二「尾張平野の古墳時代史と一宮
 市」一宮の歴史と文化」一宮を語る」一宮市博物館●樋上
 昇二〇〇五「浅井古墳群」愛知県史「資料編三 愛知県

(一宮市博物館 学芸員 藤井雅太)

浅井古墳群に葬られた人々はそのような人だったのでしょか。それを考えるヒントになるのが葉栗野古墳から見つかった金色の馬具です。当時、このような馬具は有力者のみが持つことが出来る道具でした。また刀や鏃、甲冑などの武器類も出土していることを考えると、浅井古墳群に埋葬された人々は濃尾平野有数の軍事力を持つ有力な豪族であったと推定できます。

浅井古墳群に葬られた人は

▶ 葉栗野古墳(人麿塚古墳)で発見された石棺(昭和8年)



民謡と出会って

声楽・合唱部門 佳富士会 細井 進

私が民謡と出会ったのは、昭和五十一年の秋だったと思う。会社の寮で私が何気なく民謡を口ずさんでいたのを知っていたという先輩が、「近々民謡の発表会があるけど行ってみるか」と声をかけてきた。当日誘われるがまま、その人について行くと会場は一宮市民会館であった。幾人かの迫力ある唄を聞いているうちに「いつかこんな舞台上で唄ってみたい」と思うようになり、一週間後には民謡の教室に入会していた。ただ私に声をかけてくれた先輩は入会しなかった。まずは教室で必要なテープレコーダー、生テープ、ノートを買い求めて、実際の民謡教室の初日を待った。教室



第六回輝け！日本民謡大賞
愛知県選抜大会にて(昭和58年)

へ行くと六、七人の生徒が先着していて、私のちよつと後に先生が到着された。先生から私の紹介をしていただき、教材の分厚い歌詞集の本を渡された後、私は深々と頭を下げた。「細井でございます。今日からよろしくお願ひします」そう言った日からもう四十年という月日が過ぎ去った。

入会してからは教室はもとより、自宅や自動車に乗っている時、また近くの本曾川の河川敷などが練習場となった。基本的な口の開き方、声の出し方、呼吸のし方などを来る日も来る日も、そして少し唄えるようになって面白さが出て来た。



尾西芸能祭にて(平成19年)



全日本民謡民舞連盟
第三回みんれん全国大会にて(昭和59年)

ところで、民謡という唄は人が生活している環境での苦しさや楽しさなどを口にしてきたものが詩となり、節がつくと言う、いわば自然発生的に生まれたものであるから、誰が作詞し、作曲したかは不明なものがほとんどである。従って唄の覚え方にしても先生が唄うのを真似して唄う、いわば口から耳へ、耳から口へのくり返しで身につける。「先生の技を見て盗め」だから、つまり「盗んだ者勝ち」である。勿論自分での味付けも必要だが…。この表現はいろんなジャンルで使われている。唄は声の高低、音域、音質などを使い合わせて詩情表現するので、その奥の深さというのが最大の魅力である。他の趣味もやって来たが民謡が一番長寿となった。日本文化の一つである民謡をこれからも続けて行きたいものである。

未来を拓く芸術と文化

書部門 公益社団法人中部日本書道会 一宮支部長 岩田 澗流

当公益社団法人中部日本書道会一宮支部は、愛知・岐阜・三重県下にある八支部の中で最も古い歴史を持ち、現在約三七〇名の会員が日々研鑽しています。本年は創立六十二年目を迎えます。先年、六十周年を記念し、「次代を担う青少年に贈ることば展」を、多くの皆様のご協力をいただき開催できましたことは、記憶に新しいところですが、一宮市内の多くの小学校より、先生方の温かいお心とメッセージが込められた書作をご揮毫いただきました。児童生徒、保護者の皆様、そして支部会員一同、大きな感動と力強い励まし、夢と希望を戴きました。心より感謝申し上げます。

さて、一宮支部の行事としては、二月または三月に講演会（一般聴講可）を開催しております。昨年はNHK「テレビで中国語」で長年講師を務められた愛知大学教授 荒川清秀先生をお迎えし、「中国の街で見る漢字」―日中漢字の意



平成27年度講演会風景 (H28.3.6)

味の違いを考えると題し、お話しただきました。七月には、一宮書道連盟主催「七夕まつり学生書道展」「選抜作品展」を後援協力しています。十月に入りますと、支部研修旅行（一般参加可）を実施。昨年はバス三台にて、岐阜県神戸町「日比野五鳳記念美術館」と郡上八幡方面を訪ねました。十一月には、一宮支部員による「支部展」と「学生書道展」を開催しております。支部展においては、流派を越えた支部会員の大家族展



平成28年支部展会場風景 (H28.11.26~27)

であり、様々な表現された漢字作品・日本独自の流麗なかな作品・詩や心に響く言葉が題材とした近代詩文作品等が出品され、会場は正に深遠な芸術の森となります。学生書道展では、幼年から高校三年までの努力の成果が展覧され、常時家族連れで賑わい、良き交流の場となっています。

ところで、私はパソコンや携帯電話が普及した現代だからこそ、美を追求し、豊かな心を育むあらゆる芸術文化活動・教育は本当に大切であると思います。書教育においては、挨拶・礼儀作法と共に、一枚のお手本を見つめ何枚も稽古を積み重ねることで、細かい注意力と物事をしっかり見つめる姿勢、



平成28年学生書道展会場風景 (H28.11.26~27)

そして根気根性が培われます。また、正しく美しい文字を書きたいという心から生まれる美的感覚、苦心の結果に得る深い感動と喜び、これらが豊かな人間形成に繋がります。これは私の恩師、（故橋本翠川先生の大切な教えであります。これからも書を通して地域文化の発展向上と、次代を担う青少年の健全な育成のために貢献できるように、支部員一丸となり努めたいと思います。

最後に、協会の皆様のご健康で、それぞれの芸術と文化に親しむことができる深い喜びを、生涯の生きがいとして過ごされますことを願ってやみません。

文化情報



「春の妖精」 武鹿 千代

《市および市内公共施設の催し予定》

※一宮市博物館・三岸節子記念美術館
・尾西歴史民俗資料館について
○入館は午後4時30分まで
○月曜休館(月曜日が休日の場合は開館)、休日の翌日休館

一宮市博物館

☎(46)3215

企画展「新収蔵品展」

日時 6月3日(土)～7月9日(日)

午前9時30分～午後5時

内容 近年博物館に寄贈された美術作品を展示します。

観覧料 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

※市内小中学生・65歳以上無料

三岸節子記念美術館

☎(63)2892

常設展「三岸節子 永遠に咲く花」

日時 4月4日(火)～6月25日(日)

午前9時～午後5時

内容 節子独自の花の作品へと昇華されていく過程を中心に、

静物画や風景画などの画業全体を紹介します。

観覧料 一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

※市内小中生・65歳以上無料

せつこクラブ美術館たんけん

日時 4月15日(土)午前10時～正午

内容 子どもたちによる「美術館

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

子ども講座

「富田一里塚を守ろう!」

日時 3月25日(土)予備日26日(日)

午前10時～11時30分

内容 美濃路沿いにある「富田一

里塚」の古いエノキの木の

手入れを体験します。

対象 市内在住の小学5年生～中

学生

定員 10名

※参加料無料・要申込み。詳しくは広報3月号を参照

中央図書館

☎(72)2343

一宮から世界へー世界できらきら

輝くJICAボランティア写真展

日時 3月23日(木)～4月4日(火)

たんけん隊」が普段見られない施設の裏側を探検し、美術館の謎を探ります。

対象 年長～小学生

定員 10名

※参加料無料・要申込み。詳しくは広報3月号を参照

午前9時～午後9時

内容 JICA事業の紹介と、一宮市出身ボランティアの活動の様子を展示します。

会場 6階 多目的室2

観覧料 無料

一宮市観光協会

☎(28)9131

第49回一宮桜まつり

日時 3月25日(土)～4月10日(月)

(開花状況により変更あり)

内容 市内の桜の名所を会場に開催します。大江川緑道では

午後6時～9時30分までライトアップします。

会場 大江川緑道(大乘公園～須ヶ崎橋)、青木川河畔、浅井山公園、木曾川堤、稻荷公園、真清田神社、尾西緑道

入場料 無料(以下同じ)

第40回つつじ祭

日時 4月29日(土)・30日(日)

午前10時～午後4時(30日は午後3時まで)

内容 戦国武将浅野長政の屋敷跡に整備された浅野公園に、

1,000株以上のツツジが咲き誇ります。

会場 ● 浅野公園

第51回全国選抜チンドン祭り

日時 ● 5月28日(日)

午前9時～午後5時

内容 ● 全国選抜チンドンコンクールやパレード、ステージイベントを行います。

会場 ● 萩原商店街

第16回花しょうぶ祭

日時 ● 6月3日(土)・4日(日)

午前10時～午後3時30分

(4日は午後3時まで)

内容 ● 園内にある38種類約1,700株の花しょうぶが見事な花を咲かせます。

会場 ● 萬葉公園高松分園



☎(51)3570

日時 ▼ 3月12日(日)・4月9日(日)

6月11日(日) 午後1時～

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 真清短歌会委員により実作指導します。(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

『春の市民短歌吟行会』

日時 ▼ 5月19日(金) 午前9時～

行先 ▼ 岡崎公園、岡崎城(岡崎市) 他

対象 ▼ どなたでも
定員 ▼ 35名(抽選)

参加料 ▼ 2,500円(昼食付き)

申込み ▼ 4月21日(金)までに事務局

☎(85)7075へ連絡

『瀟聲會定例会』

☎(78)7953

日時 ▼ 3月25日(土)・4月22日(土)

5月27日(土) 午前10時～

会場 ▼ 中央図書館

内容 ▼ 漢詩文の基本的な読み方をはじめ、作者の時代背景にも触れながら初めての方に

も分かりやすく「唐詩三百首」を解説します。

(初心者歓迎)

講師 ▼ 三島徹氏(東洋文化振興会会長)

参加料 ▼ 月2,000円

申込み ▼ 当日直接会場

『市民俳句教室』

☎(73)5504

日時 ▼ 3月26日(日)・4月23日(日)

5月28日(日) 午後1時～

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 当季雑詠3句を一宮市民俳句教室委員が指導します。(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

『春の市民俳句吟行会』

日時 ▼ 5月16日(火) 午前9時～

行先 ▼ 彦根城(滋賀県彦根市)、五箇荘(同県東近江市)他

対象 ▼ どなたでも

定員 ▼ 35名(抽選)

参加料 ▼ 3,500円(昼食付き)

申込み ▼ 4月21日(金)までに事務局

☎(85)7075へ連絡

☎(77)3479

日時 ▼ 3月26日(日)・4月23日(日)

5月28日(日) 午後1時～

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 自由吟および課題吟を一宮川柳社委員が指導します。(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

『瀟聲會作詩教室』

☎(78)7953

日時 ▼ 4月4日(火)・5月2日(火)

6月6日(火) 午前10時～

会場 ▼ 中央図書館

内容 ▼ 漢詩文の作り方の指導をはじめ、持ち寄った創作詩の添削の検討を会員間で行います。(初心者歓迎)

参加料 ▼ 年3,000円

申込み ▼ 当日直接会場

『狂俳月例会』

☎(78)5002

日時 ▼ 4月8日(土)・5月13日(土)

6月10日(土) 午後1時～

会場 ▼ 葉栗公民館

内容 ▼ 各自10句持参、互選により

『市民短歌教室』

☎(問合せ先 真清短歌会)

『市民川柳教室』

☎(問合せ先 一宮川柳社)

優秀作を記録に残します。
(初心者歓迎)

参加料▼無料

『石刀まつり』

【問合せ先 一宮民俗芸能連盟】

☎(73) 52221

日程▼4月23日(日)

会場▼石刀神社(今伊勢町馬寄)

内容▼山車からくり・献馬

『春季謡曲大会』

【問合せ先 一宮謡曲同好会】

☎(62) 09666

日時▼4月23日(日)

午前9時30分〜

会場▼尾西生涯学習センター

内容▼素謡、連吟、仕舞等の発

表

入場料▼無料

『サロンコンサート』

【問合せ先 一宮音楽家協会】

☎(87) 2827

日時▼5月7日(日) 午前11時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼一宮音楽家協会会員が、

心なごむ名曲の数々を発

表します。

曲目▼ドボルザーク作曲「スラ

ブ舞曲第一番」越谷達之
助作曲「初恋」など

入場料▼無料

『モア会15周年記念水彩画展』

【問合せ先 楽しく描こう会】

☎(62) 7647

日時▼5月16日(火)〜21日(日)

午前9時30分〜午後5時

(16日は正午から、21日は

午後4時まで)

会場▼三岸節子記念美術館

内容▼講師の小川護先生の指導

で学ぶ、楽しく描こう会、

尾西ガリバンバンの会、

パレット会の3団体によ

る記念展覧会を開催しま

す。

入場料▼無料

『女声合唱団コール・フリーデ 20周年第8回演奏会』

【問合せ先 一宮合唱協会 女声

合唱団コール・フリーデ】

☎(62) 1971

日時▼5月21日(日) 午後2時〜

(開場は30分前)

会場▼名古屋文理大学文化フォ

ーラム(稲沢市民会館)中

ホール

内容▼女声合唱組曲「水のいの

ち」、イタリアと現代ハ

ンガリーの合唱曲、百万

本のバラ他

入場料▼一般 1,000円

中学生以下 500円

※全席自由・大森楽器、坂野楽

器、星川楽器にてチケットを

販売

『2017 一宮総合美術展』

【問合せ先 生涯学習課】

☎(85) 7057

日時▼6月8日(木)〜11日(日)

午前10時〜午後5時(11

日は午後4時30分まで)

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼加入団体から選抜された

作家の作品の日本画・洋

画・彫刻立体・工芸・デ

ザイン・書・写真の作品

を展示します。

入場料▼無料

『尾西ウィンドオーケストラ 創立50周年記念演奏会』

【問合せ先 尾西ウィンドオー

ケストラ】

☎(76) 1161

日時▼6月11日(日) 午2時〜

午後2時〜

(開場は30分前)

会場▼尾西市民会館

内容▼尾西ウィンドオーケスト

ラ会員による演奏会。

入場料▼無料(全席指定)

『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。掲載を希望される団体は、発行月3・6・9・12月の前々月15日までに、下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項 ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場 ⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他必要事項

提出先 〒491-8501 一宮市芸術文化協会事務局 (住所不要) またはFAX 0586-73-9213

この「いちのみやの芸術文化」は、今年度の編集委員八名により、編集されています。

【編集委員】 ※順不同・敬称略

浅井 英仁 ・ 木全 修
小島 祥子 ・ (故)後藤富士雄
坂井 斉 ・ 増田 和臣
(故)柳原田主子 ・ 横井 静嘉

[題 字] 武 山 翠 屋
[編集・発行] 一宮市芸術文化協会

[連絡先] 一宮市芸術文化協会事務局 (市教育委員会生涯学習課内)
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7075 / FAX 0586-73-9213